

福島県立須賀川支援学校 地域支援センター

きらり 通信

令和4年5月6日(金)発行 号外
福島県立須賀川支援学校
☎: 0248-76-2511
携帯: 080-3219-8021
Fax: 0248-72-4729
ホームページ <https://sukagawa-sh.fcs.ed.jp/>



福島県立須賀川支援学校

検索

令和4年度もよろしくお願ひいたします。



コーディネーター
益子 美樹子



地域支援アドバイザー
柳田 省吾



地域支援センター主任
磯谷 さおり



センター員
深谷 茂



センター員
河原田 由香



センター員
杉山 渉



センター員
長谷川 淳子



センター員
高橋 憲一



センター員
齋藤 聡子

地域支援センター「きらり」の場所が変わります！ 相談等のお電話お待ちしております。

令和4年度は、独立行政法人国立病院機構福島病院の旧附属看護学校(須賀川市芦田塚13番地)玄関右側の教室が地域支援センター「きらり」となりました。相談などの際は、そちらにおいて頂くようになります。なお、相談等を申し込まれる際は、上記電話番号、または携帯へ御連絡ください。相談内容を伺い、必要に応じて日程を調整いたします。お電話、お待ちしております。



地域の先生方、保護者の方々へ

子どもたちが笑顔で生活できるように、相談・情報の提供・研修への協力等を行います。

◇相談支援◇

・電話や本校へ来校して頂いての相談、地域のこども園や小、中学校等へ訪問させて頂いての相談を行います。

◇研修支援◇

・本校の職員が訪問し、研修会を行います。

◇「きらり」親子教室◇

・小さなお子様と一緒に本校へ来校して頂き、職員とお子様が進んでいる間、ゆっくりと相談ができます。



本校 保護者の方々へ

児童生徒、保護者のニーズに応じた相談を行います。

◇切れ目のない相談◇

・コーディネーターを中心に各関係機関と連携し、情報交換の場としてケース会議を開くことができます。

・地域支援アドバイザーを中心に地域資源の情報を提供することができます。

◇スクールカウンセラーによるカウンセリング◇

・今年度も富森先生に御担当頂き、年間を通して、相談をすることができます。お子様へのかかわり、御自身のことなどお気軽にお申込みください。

～令和3年度までの主な相談・研修内容～

【保育園、子ども園】

- 大好きな活動に夢中になり、次の活動への切り替えが難しい時があります。どのように誘えばいいでしょうか。
- 落ち着かなくなることがあります。何が原因で落ち着かなくなってしまうのでしょうか。
- 運動会の練習など集団での練習が苦手なようです。どのように支援すれば、自信をもって活動に参加することができるでしょうか。
- ことばがなかなか増えないようです。支援者としてどのようにかかわればいいでしょうか。
- 発音が不明瞭で、聞き取りが難しい時があります。園でできる対応は、どのようなものがありますか。
- 友達とのトラブルが多く、思わず手がでてしまうときが多いようです。そのようになる前にどうすればよいでしょうか。また、そうなってしまった後にどのようなかかわりが必要ですか。
- 次年度、小学校に入学します。個別の教育支援計画は、作成していますが、事前にどのように小学校に伝えていけばよいでしょうか。



【小学校・中学校】

- 離席してしまうことがあります。また、クラスの中に気になるお子さんが数名おり、授業中クラス全体が落ち着かなくなってしまうことがあります。どのような支援が考えられますか。
- 暴言や暴力が見受けられます。どのようにかかわればよいでしょうか。
- 校内体制（全職員での対応、支援員の配置など）を整えていますが、なかなか難しい場合があります。環境をどのように整えていけばよいでしょうか。
- 授業の様子を参観してほしいです。どのように支援方法を工夫すれば、一人一人がわかる授業づくりを行えますか。
- ユニバーサルデザインの授業づくりは、実際どのようなものですか。具体的に知りたいです。
- 保護者の方と一緒に相談したいです。

【地域の保護者の方々、児童生徒の方々】

- 学校に登校することが難しい状況が続いています。学校には行きたいと思っています。今後の進路を考えると不安です。
- △△障がいの診断があります。どのような進路先が考えられるでしょうか。今後、どこに相談し、どのように就学先が決まっていくのでしょうか。
- 特別支援学校を進路先の一つにとアドバイスを受けました。学校見学と相談をしたいです。
- 書字をすることが難しいです。どのように先生に伝えればよいのでしょうか。

【児童館】

- 異学年の子ども達が100人近く利用する中で、どのようなことに配慮していけばよいのでしょうか。子ども同士のトラブルが多いです。定期的にケース会議を開き、支援方法等について考えていきたいです。